



近畿中国森林管理局 里山広葉樹林活用・再生プロジェクト

かつては長くて20～30年間隔で伐採されていた旧薪炭林は、利用されなくなり、高林齢化しています。

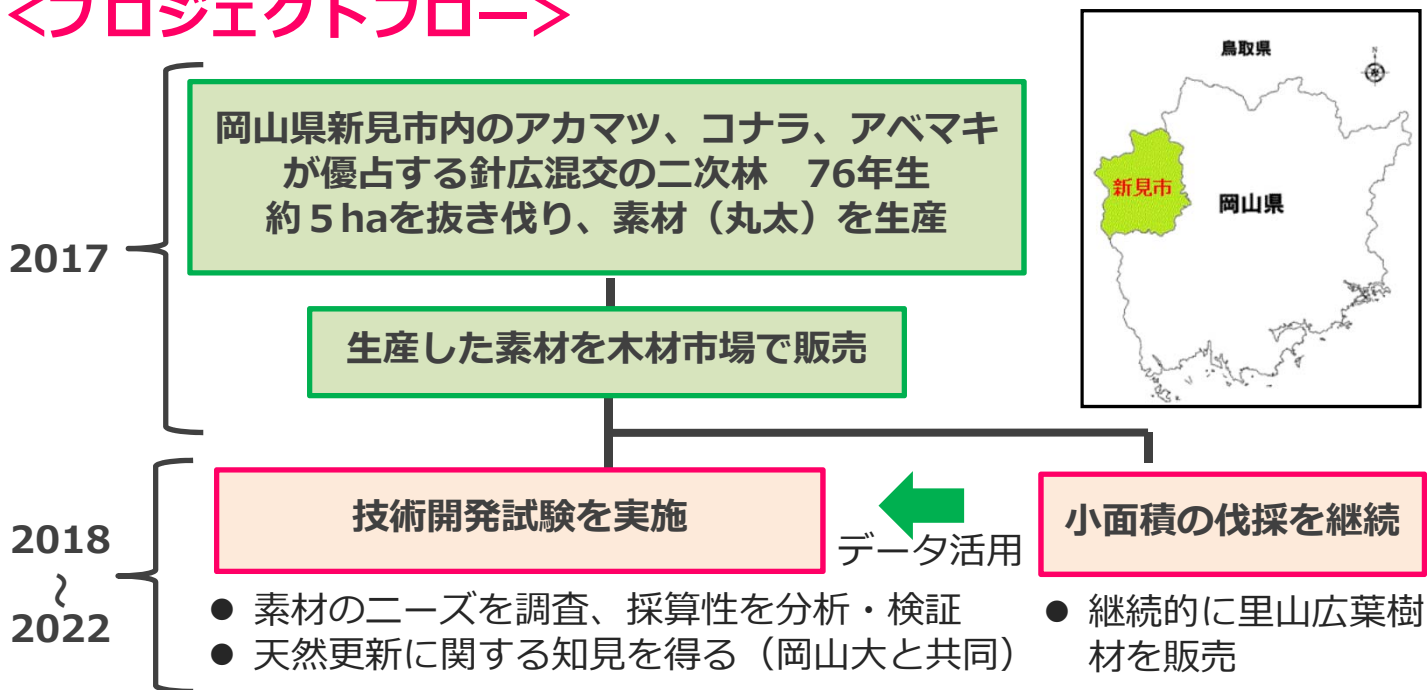
そのことが、大径木を好むカシノナガキクイムシによるナラ枯れ被害を増長しています。一方で、資源利用の観点では、薪やバイオマス発電用のチップといった燃料、しいたけ原木としての利用だけではなく、製材として利用できるサイズに育ってきているといえます。

また、家具や建物の内装に用いられている広葉樹材はこれまで多く用いられてきた外国産広葉樹材が、生産国における違法伐採対策による伐採量の制限や資源的制約、価格高騰によって入手が困難な状況になってきており、代替する木材の確保が急務となっています。

里山広葉樹資源の利用、特に付加価値の高い製材としての利用が進めば、これらの課題に効果的に対応できます。

そこで、近畿中国森林管理局では、森林を所有し、自ら事業発注を行っている国有林野事業の特性を活かして、この問題に取り組んでみようと考え、2017年度に、「里山広葉樹林活用・再生プロジェクト」を始動させました。

<プロジェクトフロー>



アウト
プット

製材利用の
ノウハウ

天然更新の
ノウハウ

市場への
インパクト

波及
効果

- プロジェクトが呼び水になって、民有林からも広葉樹材が継続的に供給されるようになる。
- 木材産業界が広葉樹素材の持続的な供給ポテンシャルに合わせ、加工・流通のフローを形成。
→ 持続的な広葉樹加工産業を形成。

